

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199		奥飛騨温泉郷観光イベント開催事業	担当課	上宝支所基盤産業課				内線
	番 号								3931
予 算	会 計	1	一般会計	位 置 予 算 の	○	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	観光振興費			D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画							
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・交流人口(観光客)の増加による地域活性化		
概要	事業の実施手法(手段)	・奥飛騨温泉郷の地域特性や自然環境を活かした集客イベントを四季を通じて実施する		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		「北アルプス自然感謝祭」「新穂高温泉中尾かまくらまつり」等、15の集客イベントを開催					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	イベント開催回数	回	目標値	15	15	15	
			実績値	15	15	-	
			算出根拠等	達成率(%)	100	100	-
成果指標	イベントへの来客数	人	目標値	75,000	75,000	75,000	
			実績値	51,900	53,800	-	
			算出根拠等	達成率(%)	69	72	-
成果指標	奥飛騨温泉郷への年間入込客数	千人	目標値	1,500	1,500	1,500	
			実績値	1,170	1,182	-	
			算出根拠等	達成率(%)	78	79	-
			目標値				
			実績値			-	
			算出根拠等	達成率(%)			-
			目標値				
			実績値			-	
			算出根拠等	達成率(%)			-
			目標値				
			実績値			-	
			算出根拠等	達成率(%)			-
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)			13,300	12,100	9,800	
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			13,300	12,100	9,800	
	コスト指標						
	受益者1件当たり(円) (A÷B)		3,888	3,602	2,985		
	受益者	上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B)	3,421	3,359	3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		・奥飛騨温泉郷で計画しているイベントは、観光客のみならず市民にとっても楽しめるものである	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		・当事業は(一社)奥飛騨温泉郷観光協会が中心となり組織する「奥飛騨温泉郷イベント実行委員会」が実施しており、市民と行政が一体となって誘客イベント開催による地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		・継続して開催しているイベントの知名度が上がり、イベント目当ての観光客も増加している一方、奥飛騨温泉郷での宿泊客数が伸び悩んでいる現状があるため、今後は集客イベントを活かした奥飛騨温泉郷全体の受入体制の整備を検討する必要がある	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		・イベント内容や開催手法を見直してコスト縮減に努めてはいるが、イベントの回数や質を確保するためにはある程度の投資は必要である	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・奥飛騨温泉郷全体の入込客数が横ばい傾向である中で、イベントへの来客数は増加していることから当事業の効果は表れているといえるが、今後は宿泊客数の増加につながる方策を検討する必要がある	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・イベント開催による集客効果は上がっているが、宿泊客数増加につながる体制の構築が必要である
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・イベント内容や実施時期等を精査し、少ない投資で最大の効果が得られるよう検討を行い実施する
-----------------	---

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		地域スポーツ振興事業 (スキー大会支援事業)	担当課	上宝支所 地域振興課			内線
		番	種						3913
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け の	○	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費				D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画						
市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	大会に参加する児童数	対象者数	120 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地元でのジュニアスキー大会開催により、スキー人口減少の抑制、スキーレベルの向上と交流人口の増加に伴う地域の活性化に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	平湯温泉大滝山ジュニアアルペンスキー競技大会 ・上位入賞者への賞品(トロフィまたは楯)の授与		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		スキー大会参加者 N=111名						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	スキー大会参加者		人	目標値	120	126	107	
				実績値	111	102	-	
成果指標	算出根拠等	スキー大会出場者数	%	達成率(%)	93	81	-	
				目標値	105	105	105	
成果指標	参加者増加率		%	実績値	96	92	-	
	算出根拠等	当年参加者数/前年参加者数		達成率(%)	91	88	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
成果面	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
		実績値				-		
成果面	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
		実績値				-		
成果面	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
		実績値				-		
成果面	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
		実績値				-		
成果面	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
		実績値				-		
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			67	67	70		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			67	67	70	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			604	657	654	
		受益者	大会参加者 (B)		111	102	107	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	スキーレベル向上策のみにとどまらず、冬季観光の誘客イベントとして必要である。	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市が上位入賞者に対し、賞を授与することで、市の7次総目標「人々のところを魅了する滞在型、通年型の観光地づくりを行う(多様な観光需要への対応)」を具現化している。	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	大会参加者数は、若干の増減はあるものの、ほぼ横ばい傾向である。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	競技種目が固定されているため、賞の数量を減らす余地はない。また、「賞」であるがゆえ安価な物品の授与であっても入賞者にとって技術向上に対する意識高揚に繋がる。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	冬季の観光誘客に加え、入賞を目指して大会全体のレベル向上が図られていることから、市の7次総目標「競技スポーツの普及と競技力の向上を図る」に繋がる効果があった。	
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・参加者を増加させるためには、大会参加者である小学生にとって魅力ある賞品の授与が効果的である。限られた予算のなかで、小学生の意識高揚に繋がる賞品の選択が求められる。
--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・予算の範囲内で参加者増に繋がる賞品の選択を検討する必要がある。
-----------------	----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		21899		巨樹巨木保護事業	担当課	上宝支所基盤産業課			内線
		番	種						3931
予算	会計	1	一般会計		特別 予算 の 位 置 付 け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18	環境政策費				D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画							
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します ・飛騨高山の自然環境を生かしたグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生み出します。 豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります ・市民生活の中に自然環境を活かした街づくりを進めます。						
		3							

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・林野庁の「森の巨人たち百選」に選定された「平湯の大ネズコ」の保全及び周辺環境整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・保全団体へ補助金を交付することにより、保全管理・周辺環境整備・広報活動を支援する		

2 事業の推移・結果 (Do)

成果面	H25の実績		・環境整備 9回 ・学習会の開催 1回				
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	整備回数	回	目標値	4	4	4
				実績値	8	9	-
		算出根拠等		達成率(%)	200	225	-
	成果指標	学習会の開催	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)			50	50	50	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源		50	50	50	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)		1	1	1	
		受益者	市民(4月1日現在) (B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・国(林野庁)の選定であるため、「平湯大ネズコ」の保全は市民のみならず国民全体の財産の保全に繋がる ・国立公園内に位置し自然保護のシンボリックな巨木であり、観光面でもニーズは高い	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・事業主体は平湯巨樹巨木保全協議会であり、自然環境の保全・環境教育活動の助成を行うことは妥当である	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・毎年学習会を開催しているが、認知度不足により回数が増加しない ・事業主体の予算規模が小さく、充分なPRができていない	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・限られた予算の中で、保全団体の創意工夫により整備が行われている	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・長い年月を経た巨木は環境保全や生物多様性のシンボリックな存在であり、地元小学校の自然学習教材となるなど、市長の公約実現に向けた取り組みを行っている	
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)		・知名度向上のために、市役所内の関連部署や観光協会と連携してPRする必要がある						
---------------------------------------	--	---	--	--	--	--	--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものと整合を図りながら、今後の支援のあり方を検討する必要がある						
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・環境教育に対する地区内他施設・団体との連携 ・観光資源、健康づくりや心身のリフレッシュの場としての利活用方法のPR						
-----------------	---	--	--	--	--	--	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399		地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	上宝支所 地域振興課			内線	
	専任							3921	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 予算 付け の		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	3	民生費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項		社会福祉費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	老人福祉費				D	その他事業	
根拠計画			高山市老人福祉計画						
市長公約		5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,751 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開と町づくりへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人件費に対する助成						
		指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
成果面	活動指標	連合長寿会会員数		人	目標値	10,000	10,000	10,000
					実績値	9,584	9,677	-
	算出根拠等			達成率(%)	96	97	-	
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数		クラブ	目標値	143	139	140
					実績値	139	138	-
	算出根拠等			達成率(%)	97	99	-	
	活動指標	連合長寿会加入率		%	目標値	40	40	40
					実績値	38	37	-
	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口		達成率(%)	95	93	-	
					目標値			
					実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-		
補正事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)				420	420	420	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)				150	149	280
		一般財源				270	271	140
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)				515	516	453
		受益者	上宝地区会員数(4月1日現在) (B)			816	814	928

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入者は減少傾向にある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進することを目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市域全体として、新規加入者が少なく、連合長寿会会員加入率及び単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
---	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		53199		大規模林道環境保全事業	担当課	上宝支所基盤産業課			内線
		番	種						3931
予算	会計	1	一般会計		特別 置付 け 算 の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3	林業費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	林業総務費				D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します						
			・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。						
		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します						
			・特用林産物の振興、森林技術者の確保・育成など、総合的な林業振興策に積極的に取り組みます。						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・上宝支所地域、特に双六地区の活性化と観光客の誘致のために、安心・安全な交通環境を整備する		
概要	事業の実施手法(手段)	・沿道の草刈 ・崩土除去、側溝清掃 ・災害防除工事		

2 事業の推移・結果 (Do)

成果面	H25の実績		・沿道の草刈 ・崩土除去、側溝清掃 ・災害防除工事					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	草刈延長	km	目標値	5	5	5	
				実績値	6		-	
		算出根拠等		達成率(%)	124	0	-	
	成果指標	観光客の入込客数	千人	目標値	1,500	1,500	1,500	
				実績値	1,170	1,182	-	
		算出根拠等		達成率(%)	78	79	-	
	成果指標	土砂崩落等による通行止め日数	日	目標値		0	0	
				実績値		0	-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			762	5,498	800		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			762	5,498	800	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)			223	1,637	244	
		受益者	上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B)		3,421	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	A	・地区住民には生活道路及び森林作業路として、観光客には清流双六川への導入路として必要な路線である。
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	A	・市が管理する道路であるため、市が実施する必要がある
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	B	・安心安全な道路づくりはできているが、観光道路としての誘客のPRが不足している
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	B	・草刈りは見通しの悪いカーブの視距確保による交通安全対策の面からも必要な事業であるため、コスト削減を作業延長の減少で行うことは困難である
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	A	・生活・観光道路の確保、林業振興、物流の促進等で効果が上がっている
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)		・誘客による地域振興を図るためにPRに力を入れる必要がある
---------------------------------------	--	-------------------------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・奥飛騨温泉郷観光協会に対するPR強化の依頼
-----------------	------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62299		新穂高登山者用駐車場管理事業	担当課	上宝支所基盤産業課			内線
		番 号							3931
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 付け の		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	2	観光施設費			D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画							
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・観光客受入体制の整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・登山シーズンにおける登山者用駐車場の交通整理及び警備、仮設トイレ設置、場内清掃業務を委託により実施 ・登山者用駐車場の増設		

2 事業の推移・結果 (Do)

成果面	H25の実績		・駐車場の交通整理及び警備 46日(4～10月) ・仮設トイレの設置及び管理清掃 7～11月					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	交通整理及び警備日数	日	目標値	50	61	66	
				実績値	44	46	－	
				算出根拠等	達成率(%)	88	75	－
	成果指標	飛騨側からの登山者数	人	目標値	37,300	39,200	41,200	
				実績値	39,938	37,606	－	
				算出根拠等	登山者数は飛騨側での登山届提出数	達成率(%)	107	96
				目標値				
				実績値			－	
				算出根拠等	達成率(%)			－
				目標値				
				実績値			－	
				算出根拠等	達成率(%)			－
				目標値				
				実績値			－	
				算出根拠等	達成率(%)			－
				目標値				
				実績値			－	
				算出根拠等	達成率(%)			－
補足事項								
・活動指標の交通整理日数は達成率が低い方が良好								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			2,467	2,698	9,150		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			2,467	2,698	9,150	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			721	803	2,787	
受益者		上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B)		3,421	3,359	3,283		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・登山は早朝の出発が多いため、公共交通機関の利便性が悪い 飛騨側ではマイカーの利用が多い ・最盛期には早朝に満車となり、代替駐車場への誘導を余儀なくされている		
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市の公園事業として実施しているため、見直しの余地はない		
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・駐車場の収容台数不足によるものを除き、現場での混乱や苦情はない		
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・登山ブームの高まりとともに駐車場が満車となる日が増加しているが、登山は天候や曜日の並びに左右されるため、コスト縮減を警備日数で調整することは困難である		
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・受入体制の整備により飛騨側から北アルプスを目指す登山者が増加しているが、収容台数不足が路上駐車増加やイメージダウンにつながる恐れがある		
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	・新穂高深流工で減少した市営駐車場の収容台数を補てんするため、収容台数の増加が必要 ・収容台数の増加が必ずしも路上駐車に繋がらない恐れがある
---	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了後の対応を検討する必要がある
-----------------------------	-----------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・今年度の入込動向を注視しながら、需要予測を行い交通整理・警備を実施する ・収容台数不足に対応するため、適平に駐車場を増設する
---------------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62499		北アルプス飛騨側登山道等維持管理事業	担当課	上宝支所基盤産業課				内線
	番 号							3931	
予算	会計	1	一般会計	特 別 位 置 予 算 の け		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	自然公園費				D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・登山道及び道標の整備による北アルプス登山者の安心・安全確保及び周辺整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・登山道整備の実施団体である「北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会」に対し、事業実施費用の一部を負担金として支出する		

2 事業の推移・結果 (Do)

H25の実績		・打合せ 5回 ・登山道整備(6～10月) ・標柱の設置、修繕 1箇所(10月) ・危険箇所等現地踏査(7～10月)						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	協議会との打合せ		回	目標値	3	3	3	
				実績値	6	5	-	
	算出根拠等			達成率(%)	200	167	-	
成果指標	飛騨側からの登山者数		人	目標値	37,300	39,200	41,200	
				実績値	39,938	37,606	-	
	算出根拠等	登山者数は飛騨側での登山届提出数		達成率(%)	107	96	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
	補正事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			2,000	2,000	2,000			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			2,000	2,000	2,000	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)			585	595	609	
		受益者	上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B)		3,421	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・近年の中高年層を中心とする登山ブームにより、登山道の安全確保は重要な課題となっている
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・当事業は山小屋が中心となり組織する「北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会」が実施しており、市民と行政が一体となって北アルプスの環境整備を実施することによる地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげられている	A	・岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会や奥飛騨温泉郷観光協会へ登山道に関する苦情等は入っていないため、整備の効果は上がっている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・山小屋を中心として組織する団体が整備を実施する方法は、請負による整備よりコスト縮減に繋がっている
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	A	・飛騨側からの登山者数は着実に増加しており、公約の実現に寄与している
			B (1)	ある程度効果があつた		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	・3000m級の山岳地帯の歩道であり、構造物等の設置ができないため、危険度を限りなくゼロに近付けることは不可能である ・長野県側からの北アルプス登山者数は岐阜県側(飛騨側)の約5倍あり、登山者数の上積みにはPRが欠かせないものとなる	

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了後の対応を検討する必要がある
-----------------------------	-----------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・協議会や個別の山小屋等との連絡を密にし、早期の対応を行う
-----------------	-------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		72199	市道未登記用地測量事業	担当課	上宝支所 基盤産業課			内線
番 号								3942
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 付け の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総務費			D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約								

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	地元住民	対象者数	3,283 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	未登記路線の登記整理(旧町村時代に、未登記のまま道路整備した路線の登記を市へ(寄附)移転する)		
概要	事業の実施手法(手段)	岐阜県公共囁託登記土地家屋調査士会へ業務委託し、路線ごとに処理を進める。		

2 事業の推移・結果 (Do)

H25の実績		市道一重ヶ根寺前線、一重ヶ根2号線、一重ヶ根4号線、葛山2号線、長倉1号線、中山双六線、吉野浅井田線、蔵柱4号線、第1在家宮原線、上北線、本覚寺線、寺林線、古橋立平線、双六日影線、平湯3号線、見座タダノ線の計16路線の未登記処理を進めた。						
		指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
成果面	活動指標	未登記解消(業務発注路線数)		本	目標値	10	10	12
					実績値	10	16	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	160	-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
		歳出 (千円) (A)			16,626	19,931	17,000	
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			16,626	19,931	17,000	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A÷B)			4,840	5,934	5,178	
		受益者	上宝地域の住民 (B)		3,435	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	市道を市有地とすることは、道路通行における市民の安心・安全につながる。 また、事業実施により、土地所有者の資産管理に資するとともに、固定資産税の負担が軽減される。 近年の土地所有の流動化の進行等により、事業の早期実施が求められている。	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	道路管理者として、市が事業主体となり実施すべき事業である。	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	毎年着実に事業は進捗しているが、全体から見るとまだ十分ではない。また、個人の資産に係る問題であるため、処理が困難な場合がある。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	近接している路線は極力同一年度に事業実施するなど、効率的に事業を実施している。 専門部署で一括処理対応するなどの方策の検討も必要。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	道路工事等においては、土地所有範囲の明確化による事業実施の円滑化に寄与する。 市道敷きの分筆・登記により、固定資産税賦課の適正化を図ることができる。	
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)		平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。						
-----------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	地元町内会や地元住民から過去の経緯を聞き取り、事前の打ち合わせや資料収集に努め、現地立会等を重ねることにより、処理を進める。						
-----------------	--	--	--	--	--	--	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		74799		湯の花街道環境整備保全事業	担当課	上宝支所 基盤産業課				内線
		審核								3941
予算	会計	1	一般会計		特別 予算 の 位置 付け		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	都市計画費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	7	快適環境整備費				D	その他事業		
根拠計画										
市長公約		1	合併後の周辺自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源として積極的に活用します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	国道471号通過車両	対象者数	特定出来ず
	どういう状態にしたいのか(意図)	湯の花街道の景観美化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	湯の花街道の草刈り、清掃、樹木の剪定、雪囲いの設置・撤去業務委託		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		湯の花街道(国道471号)沿いのポケットパークなどの草刈り、樹木の剪定、花壇の植樹や草取り、樹木の雪囲いの設置・撤去						
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26		
活動指標	草刈り及び樹木剪定等の維持管理対象道路延長		km	目標値	30	30	30	
				実績値	30	30	-	
	算出根拠等	国道471号道路延長L=30km		達成率(%)	100	100	-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補正事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)(A)			1,413	1,413	1,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			1,413	1,413	1,500	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A÷B)						
受益者		(B)						

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	湯の花街道(R471)は奥飛騨温泉郷への観光客や飛騨山脈登山客の主要幹線道路であり、道路からの景観美、また、ポケットパークでの休憩等に利用され重要な事業である。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	集落間の観光資源を事業主体として維持整備する。地域の自治会や環境保全活動をしているNPO法人と協力し合い進める。道路管理者である岐阜県古川土木事務所による継続実施を検討している。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・湯の花街道の景観美が保たれている。 ・東日本大震災以来の観光客の落ち込みから少しでも観光客の戻りつつあることに貢献している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	花の支給等により出来る限り広範囲での実施に取り組んでいる。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)		地域の自治会や環境保全活動をしているNPO法人と協力し合い、有効な事業の執行を図る。道路管理者である岐阜県古川土木事務所による継続実施を検討している。						
--	--	---	--	--	--	--	--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・県が管理する道路施設の修景については、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。 ・花の補植等については、他の類似事業と合わせ全市的な検証を行う必要がある。						
-------------------------	---	--	--	--	--	--	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	地域の自治会や環境保全活動をしているNPO法人と協力し合い全路線において湯の花街道の更なる景観美が保たれるようにする。道路管理者である岐阜県古川土木事務所による継続実施を協議している。						
-----------------	--	--	--	--	--	--	--

次年度の実施方針(担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		91499		中学校部活動生徒送迎事業	担当課	上宝支所 地域振興課			内線
		番	種						3913
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け 算 の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	教育総務費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	スクールバス管理費				○ D	その他事業	
根拠計画									
市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	北稜中学校生徒	対象者数	97 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	北稜中学校の土曜日における部活動にスクールバスを運行し、遠距離通学生徒に対する参加機会の均衡を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	土曜日の部活における送迎 ・通年(長期休業期間を除く全土曜日)実施 ・路線(中尾線・平湯線) ・経費(賃金、燃料)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		延べ利用生徒数 N=1,960人						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	運行回数		回	目標値	42	43	43	
				実績値	39	40	-	
	算出根拠等	スクールバスの運行回数		達成率(%)	93	93	-	
成果指標	延べ利用生徒数		人	目標値	1,800	1,376	1,935	
				実績値	1,170	1,960	-	
	算出根拠等	バス運行回数×1回の利用人数		達成率(%)	65	142	-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			523	527	580		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			523	527	580	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			5,876	5,218	5,979	
		受益者	北稜中学校生徒数 (B)		89	101	97	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	市内で最も広大で起伏に富んだ地形であり、かつ全域に住家が散在しているため、運行の確保が強く求められている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	スクールバスと同一の運行経路であり、かつ休日等で遊休車両となっているスクールバスを活用しているため、スクールバス運行者である市が事業主体となることが最も効率的である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	居住地域に関係なく、全生徒が等しく部活動に参加することができ、心身ともに健全な学校生活を送ることができる。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	部活動であるがゆえ、運行予定や乗車人数がほぼ固定されているため、必要最小限の運行形態、運行コストで、十分な効果を得られる。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	遠隔地を抱える地域の特性であり、均衡ある教育環境の整備に努める必要性からも大いに効果があった。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		10	/	10	→	100点換算	100	点
----	--	----	---	----	---	--------	-----	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・現状維持が適切である。
---------------------------------------	--------------

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・スクールバスとのらマイカー等の公共交通の効率的な運行を含め、全市的に対応を検討する必要がある。
-------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・現状を維持している。
-----------------	-------------

次年度の実施方針(担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94199		花いっぱい運動推進事業 (花苗購入)	担当課	上宝支所 地域振興課			内線
		番 号							3913
予算	会計	1	一般会計	特 別 置 付 算 の		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	社会教育総務費			D	その他事業		
根拠計画			地域振興計画						
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自立的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,238 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	町内会や施設に対し花苗を配布し、地域や道路沿いの花壇での植栽管理を実施してもらうことで、地域全体を花で飾り市民憲章の具現化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	町内会等に配布する花苗の購入(春秋2回6種類)		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		花苗植栽参加団体数 延べ49団体（春・秋）						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	花苗注文数		個	目標値	50,000	50,000	54,700	
				実績値	61,000	57,016	-	
	算出根拠等		各町内会からの要望数	達成率(%)	122	114	-	
成果指標	花苗植栽参加団体		件	目標値	42	60	60	
				実績値	54	49	-	
	算出根拠等		町内会等参加団体数(延べ)	達成率(%)	129	82	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補正事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出（千円）（A）			2,375	1,998	2,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			2,375	1,998	2,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)（A／B）			684	595	618	
		受益者	上宝支所管内市民（B）		3,474	3,359	3,238	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	A	多くの町内が継続して花苗を大量に注文していることから、地域住民の環境美化に対する市民ニーズは高い。また、新たな種類の花苗を注文する町内もあることから、地域が積極的に当運動に取り組んでいると考えられる。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	A	花いっぱい運動は市民憲章の精神に基づき展開しているため、市が花苗を提供し地域が維持管理する、市と地域が一体となった環境美化の推進は、市の事業として極めて妥当である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	A	多くの町内や施設等の団体が当事業に参加し、各団体に所属する市民が共同作業で維持管理し、地域全体で参加していることから、目的は十分に達成している。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	A	年2回、町内会等の各団体からの花苗希望を取りまとめたうえで大量に購入するため、花苗の単価は非常に安価であり、且つ植付及び維持管理は地域市民による共同作業によることから市のコスト負担はないため、最小限のコストで事業実施している。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	A	市、地域団体、市民が一体となり、積極的に当事業に取り組んでいることから、環境美化、コミュニティ醸成とも十分な効果があつた。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・現状維持が適切である。
---------------------------------------	--------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・現状を維持している。
-----------------	-------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699		地域文化芸能助成事業	担当課	上宝支所 地域振興課			内線	
		番 号							3913	
予算	会計	1	一般会計		特別 置 付 け の 算		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	6	文化振興費				D	その他事業		
根拠計画			地域振興計画							
市長公約			9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 芸術文化の振興を積極的に支えます ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,238 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域に根ざした芸能文化の振興を図り、地域のコミュニティを醸成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	たから社会教育運営委員会が開催する文化祭(作品展、芸能発表)に対する補助金の交付		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		たから文化祭 延入場者数N=390人 最大入場者数N=1,310人						
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果面	活動指標	作品展・芸能発表 出演、出展者数	人	目標値	100	100	100	
				実績値	150	150	-	
		算出根拠等		達成率(%)	150	150	-	
	成果指標	作品展・芸能発表 延入場者数	人	目標値	1,300	1,300	1,300	
				実績値	1,380	1,310	-	
		算出根拠等		達成率(%)	106	101	-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
補正事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			250	250	250		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			250	250	250	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			73	74	77	
		受益者	上宝支所管内市民 (B)		3,421	3,359	3,238	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目			評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	日頃の練習成果を発表する場として、また、地域住民相互が触れ合う場として継続することに対し市民の根強い要望がある。			
			B (1)	ある程度のニーズがある					
			C (0)	ニーズが低い					
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	7次総目標「あらたな文化の創造と振興を図る」を具現化するために、市が財政支援を行うことは妥当である。事業主体はたから社会教育運営委員会であり、当地域唯一の文化振興の行事やイベントを実施する地域住民による団体であることから、事業主体として妥当である。			
			B (1)	一部見直しが必要である					
			C (0)	市が実施する必要性が低い					
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	出演者、出展者、実施団体ともに計画的に準備し開催されており、地域に根差した文化振興、コミュニティ醸成に寄与している。			
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	実施団体に所属する市民の出演により運営されており、必要最小限の経費のみで事業実施されている。			
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	文化活動の場の提供や文化にふれる機会の充実など文化的環境の醸成に寄与している。			
			B (1)	ある程度効果があった					
			C (0)	あまり効果が見られなかった					

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域全体のニーズのさらなる高まりに繋げるため、広く参加者の増加を図る必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・参加者増に向け内容を精査するよう事業実施団体へ指導する。
-----------------	-------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699		地域文化振興事業	担当課	上宝支所 地域振興課			内線
		番	枝						3913
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 予算 付け の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費				D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画						
市長公約			9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 芸術文化の振興を積極的に支えます ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,238 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	優れた芸能文化にふれる機会の充実を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域が主体となって取り組む文化振興事業に対する助成金		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績		登山家 野口健 文化講演会 入場者数N= 人					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	広報チラシの枚数		枚	目標値	1,500	1,200	1,200
					実績値	1,200	2,350	-
		算出根拠等			達成率(%)	80	196	-
	成果指標	入場者数		人	目標値	330	330	330
					実績値	330	210	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	64	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			1,300	1,300	1,300			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			1,300	1,300	1,300	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)			3,939	6,190	3,939	
		受益者	講演会等参加者数 (B)		330	210	330	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い		B	生活様式の多様化により、地域住民相互のふれあいや世代間交流の場として、誰もが観賞したいと思う優れた文化芸術に触れる機会の充実を図ることは必要である。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない		A	7次総目標「あらたな文化の創造と振興を図る」を具現化するために、市が財政支援を行うことは妥当である。事業主体はたから社会教育運営委員会であり、当地域唯一の文化振興の行事やイベントを実施する地域住民による団体であることから、事業主体として妥当である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている		B	最も来場が期待できる中高年女性層が比較的小数であったため目標より少ない入場者数となった。一方で中年男性層の来場者が比較的多く、質の高い多彩な文化に、より多くの地域住民が触れる機会の充実に寄与した。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない		A	実施団体に所属する市民の出役により運営されており、経費のほとんどが出演料であることから、必要最小限の経費のみで事業実施されている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった		A	文化活動の場の提供や文化にふれる機会の充実など文化的環境の醸成に寄与している。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・限られた予算において、最も多く来場が期待できる層が興味を引く内容を企画する必要がある。
---	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・参加者増に向け時期や内容を精査するよう事業実施団体へ指導する。
-----------------	----------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94799		文化財標柱設置事業	担当課	上宝支所 地域振興課			内線	
		番	枝						3913	
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費				○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費					C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費					D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画							
市長公約										

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・文化財標柱の設置により、市民に対する文化財の周知を行い、文化財に対する理解と保護意識の高揚を図る。 ・上宝ふるさと歴史館において特別展を開催することにより、郷土の文化や歴史等を広く周知する		
概要	事業の実施手法(手段)	・文化財案内標柱と看板の製作委託 ・ふるさと歴史館での特別展		

2 事業の推移・結果 (Do)

H25の実績		文化財標柱設置 N=3 ふるさと歴史館特別展(紙絵馬展)99日間					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	文化財案内看板設置に伴う検討会開催回数		会	目標値	18	10	10
				実績値	10	10	-
	算出根拠等	本庁・土地所有者・業者との打合せ検討回数		達成率(%)	56	100	-
成果指標	文化財案内標柱、看板設置数		個	目標値	5	5	5
				実績値	3	3	-
	算出根拠等	文化財案内標柱・看板設置した数		達成率(%)	60	60	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)			927	903	1,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			927	903	1,000
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)		10	10	11	
		受益者	全市民 (B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B		貴重な文化財を守り続けるために、また、広く住民に周知するために必要であり、ニーズがある
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		文化財の説明看板は高山市文化財保護条例で設置がうたわれており、市が中心となって設置する必要がある。
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		計画的に内容を精査しつつ標柱・看板を設置し、広く市民に文化財の存在を周知している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		石柱と同等以上の耐久性、加工性をもち、かつ安価な材料があればコスト縮減に繋がる
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B		計画的に標柱・看板を設置し、整備を進めている。
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・設置により盗難被害を誘発する文化財を除き、H26の整備完了を目指し事業継続する。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・設置計画に基づき平成26年度までに完了するよう計画的に設置を進める必要がある。
-------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・事業を継続する
-----------------	----------

次年度の実施方針(担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		地域スポーツ振興事業	担当課	上宝支所 地域振興課			内線
		番	号						
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費				D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画						
市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所管内市民	対象者数	3,238 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	上宝町・奥飛騨温泉郷の両町民を対象として、スポーツ交流事業を実施することにより、地域の連携と活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域スポーツ大会、スポーツ交流イベントの開催(主催 たちから社会教育運営委員会)の補助金		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績		・スポーツ大会及び交流イベント 開催回数 8回 ・参加者総数 525人					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	スポーツ大会等の参加者		人	目標値	420	420	551
					実績値	532	525	-
	成果指標	算出根拠等	スポーツ競技に参加の数		達成率(%)	127	125	-
	成果指標	参加者増加率		%	目標値	105	105	105
					実績値	134	99	-
	成果指標	算出根拠等	前年比		達成率(%)	128	94	-
	成果指標				目標値			
					実績値			-
	成果指標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標				目標値			
					実績値			-
	成果指標	算出根拠等			達成率(%)			-
	成果指標				目標値			
					実績値			-
成果指標	算出根拠等			達成率(%)			-	
補正事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			450	450	450		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			450	450	450	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			132	134	139	
		受益者	上宝支所管内市民 (B)		3,421	3,359	3,238	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	ストレス発散や生活習慣病の予防などの心身の健康保持のみならず、大会や交流会を通じて地域住民の世代を超えた交流の場として、子どもから高齢者まで様々な層の参加がある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	7次総目標「誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境をつくる」を具現化するために市が財政支援することは妥当である。事業主体は、たから社会教育運営委員会(体育部)であり、当地域唯一のスポーツ行事やイベントを実施する地域住民による団体であることから、事業主体として妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	多くの世代が参加しやすいスポーツイベントとなるよう計画されているため、上宝町及び奥飛騨温泉郷地域両方から様々な世代の参加があり、地域間連携に寄与している。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	実施団体に所属する市民の出演により運営されており、必要最小限の経費のみで事業実施されている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	誰もが生涯を通じてスポーツに親しむ環境づくり(7次総)に寄与している。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・様々な世代、職種の市民がより多く参加できるよう、開催の場所、時期、内容の工夫は必要である。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・参加者増に向け内容を精査するよう事業実施団体へ指導する。
-----------------	-------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20899		地域財産管理振興事業費	担当課	上宝支所地域振興課			内線
		番	枝						3912
予算	会計	1	一般会計				A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務監理費				○	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8	財産管理費				D	その他事業	
根拠計画		地域振興特別予算事業年次計画							
市長公約		10	市民のための行政改革を断行します 遊休・老朽施設を解体することで、市民の安全確保と跡地の資産価値を高めることができる						

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝・奥飛騨温泉郷地域住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	用途を廃止して不要施設となっており、老朽化により危険な状態であるため取壊すもの。		
概要	事業の実施手法(手段)	旧上宝公民館取壊し 【建物概要】・鉄筋コンクリート造り2階建て(S48建築) 面積1032㎡(1F643㎡ 2F389㎡)		

2 事業の推移・結果 (Do)

成果面	H25の実績		0					
	指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	旧公共施設の取壊し		棟	目標値	0	0	1
					実績値	0	0	-
		算出根拠等	取壊し数		達成率(%)		-	
					目標値			
					実績値		-	
		算出根拠等			達成率(%)		-	
					目標値			
					実績値		-	
		算出根拠等			達成率(%)		-	
					目標値			
					実績値		-	
		算出根拠等			達成率(%)		-	
					目標値			
					実績値		-	
		算出根拠等			達成率(%)		-	
					目標値			
					実績値		-	
		算出根拠等			達成率(%)		-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)				0	0	26,500	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源						26,500
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)					8,072	
		受益者	(B)					3,283

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	H26 新規事業	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H26 新規事業	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H26 新規事業	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H26 新規事業	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	H26 新規事業	
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62499		担当課	上宝支所基盤産業課			内線
		番 号						3931
予算	会計	1	一般会計	特 別 置 付 け 算 の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	自然公園費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。					

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・登山道整備による北アルプス登山者の安心・安全確保及び周辺整備 ・登山道整備による北アルプス登山者の安心・安全確保及び周辺整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会が実施する軽微な修繕では対処できない木道の修繕等、比較的大規模な登山道の修繕を請負にて実施する		

2 事業の推移・結果 (Do)

H25の実績		・鍋平登山道 階段工47段 ・千丈沢乗越 階段工150段 道標修繕工1箇所						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	協議会との打合せ		回	目標値	3	3	3	
				実績値	4	3	-	
	算出根拠等			達成率(%)	133	100	-	
活動指標	現地踏査		回	目標値	2	2	2	
				実績値	3	2	-	
	算出根拠等			達成率(%)	150	100	-	
成果指標	飛騨側からの登山者数		人	目標値	37,300	39,200	41,200	
				実績値	39,938	37,606	-	
	算出根拠等 登山者数は飛騨側での登山届提出数			達成率(%)	107	96	-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			1,260	1,668	2,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			1,260	1,668	2,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)						
		受益者	上宝支所管内の市民(4月1日現在) (B)					

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	A	・近年の中老年層を中心とする登山ブームにより、登山道の安全確保は重要な課題となっている	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	A	・高校総体開催時に旧上宝村で整備した登山道であるため、市が管理を行う必要がある	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	A	・岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会や奥飛騨温泉郷観光協会へ登山道に関する苦情等が入っていないため、整備の効果は上がっている	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	B	・修繕箇所への資材運搬が困難なことや、山小屋から徒歩で行かざるを得ないなど、コスト縮減が困難な事業ではあるが、工期を短縮する資材や工法の取り入れを検討することによりコスト縮減に取り組んでいる	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	B	・階段の設置により、登山者の負担軽減や登山道の荒廃を防ぐことに寄与している	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・3000m級の山岳地帯の歩道であり、構造物等の設置ができないため、危険度を限りなくゼロに近付けることは不可能である ・登山道の抜本的な改良工事は、計画的に別予算で実施する必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会と連絡を取りながら、来年度以降の実施予定箇所についても現地踏査を実施する
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		72399	市道改良事業		担当課	上宝支所 基盤産業課		内線
		番 号						
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算 の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	道路橋りょう費		○ C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3	道路新設改良費		D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		57	支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計画道路の整備を進めます。					

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町住民及び市街地への通勤者	対象者数	500 戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域からの要望も多く、合併後も通行量が增大している上宝町と高山市街地を最短で結ぶ市道上宝丹生川線の視距改良、法面改良及び待避所を設置し、安全に通行できるよう整備する。		
概要	事業の実施手法(手段)	視距改良(カーブ改良) 6箇所 L=180m 法面改良 6箇所 L=120m 待避所設置 4箇所		

2 事業の推移・結果 (Do)

H25の実績		法面改良 2箇所 植生基材吹付工(厚さ3cm) A=149㎡、コンクリート吹付工(厚さ10cm) A=205㎡、コンクリート吹付工(厚さ10cm) A=82㎡						
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	視距改良・法面改良・待避所設置		箇所	目標値	1	2	2
					実績値	1	2	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	交通事故発生件数		件	目標値	0	0	0
					実績値	0	0	-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
補正事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			1,890	4,830	4,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			1,890	4,830	4,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			3,780	9,660	8,000	
		受益者	(B)		500	500	500	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目			評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・高山市内への最短ルートとして利用が多い。 ・上宝町の利用が多いが、災害時等緊急時の迂回路として利用が可能である。			
			B (1)	ある程度のニーズがある					
			C (0)	ニーズが低い					
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	道路管理者として、維持工事は必要である。			
			B (1)	一部見直しが必要である					
			C (0)	市が実施する必要性が低い					
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	落石等が解消され、安全な通行が確保できた。			
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・局部改良であるため、測量費及び工事費を抑制できる。			
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	上宝町の利用が多いが、災害時等緊急時の迂回路として利用が可能である。			
			B (1)	ある程度効果があった					
			C (0)	あまり効果が見られなかった					

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	危険な箇所が多くあるため、積極的に工事を行い解消に努めなければならない。
---------------------------------------	--------------------------------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	計画的に実施する必要がある。
-----------------------------	----------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	局部改良を行い、通行の安全を確保する。
-----------------	---------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		54199		高原文地改良区水路管理助成事業	担当課	上宝支所 基盤産業課		内線
		番	種					3931
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	農業土木費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	農業土木総務費			○ D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・農業生産額250億円を目指します					

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝地域住民	対象者数	1,210 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・受益面積約185haの高原用水の維持管理費を助成することにより、農業用水路の適正利用と農業生産性の向上を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・高原土地改良区が行う高原用水の維持管理事業に対する助成		

2 事業の推移・結果 (Do)

成果面	H25の実績		・施設の見回り点検 ・施設の補修					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	見回り・点検回数	回	目標値	300	300	300	
				実績値	290	284	-	
		算出根拠等	達成率(%)	97	95	-		
	成果指標	断水回数	回	目標値	0	0	0	
				実績値	0	0	-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-		
補足事項								
断水回数は自然災害や計画的なものを除く施設の突発事故等による回数を計上								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			700	700	700		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			700	700	700	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			549	570	579	
		受益者	上宝地域の市民(4月1日現在) (B)		1,276	1,229	1,210	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・高原用水は畑作が中心だった上宝地区の農業を水田に変えた重要な施設であり、近年では生産物が高品質で市場でも高い評価を得ていることから、ブランド化や生産額向上に結び付いている
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・事業主体は高原土地改良区であり、維持管理経費の助成を行うことは妥当である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・非常農者を含む生活用水や冬期の融雪用水としての利用もあることから、成果は十分上がっている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・限られた予算内での事業であるため、事業主体はコスト縮減に努力している
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・上宝地域では農地の集約化や6次産業化など主要な農業施策に積極的に取り組んでいる地域であり、農業用水の安定的な供給は施策実現に欠かせないものである
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が必要なのかを記入)		・市内の他土地改良区に対する同様の補助事業は無く、修繕・改修等は市の予算(負担金あり)で計上しているため、今後は他土地改良区同様の対応とすることも検討する必要があるが、修繕・改修に必要な予算の確保と、現在同額を負担している飛騨市との調整が必要である。						
--	--	---	--	--	--	--	--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・施設の延命化を図り、持続可能な事業となるよう現状を維持しながら実施する						
-----------------------------	--------------------------------------	--	--	--	--	--	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・施設の延命化を図り、持続可能な事業となるよう現状を維持しながら実施する						
-----------------	--------------------------------------	--	--	--	--	--	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		73199	しのぶ砂防ダム管理委託		担当課	上宝支所 基盤産業課			内線
		番 号							3941
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	3	河川費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	河川維持費			○ D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画							
市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地元住民(一重ヶ根・村上)	対象者数	500 戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	奥飛騨温泉郷一重ヶ根地内にある「しのぶ砂防ダム」は、誰でも気軽にダムの中に入り見学できる砂防学習施設となっている。施設見学者(観光客等)へのイメージを落とさないようダム内歩道の照明及び水車等の管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	しのぶ砂防ダム内歩道及び水車等の管理業務、付近の清掃等及び照明灯の維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績		1回/週の頻度でのしる砂防ダム内及び水車小屋の清掃・管理業務を行った。						
	指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	しるダムの管理業務			人	目標値	144	144	144
						実績値	144	144	-
		算出根拠等	48日×3人=144人			達成率(%)	100	100	-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
						目標値			
						実績値			-
		算出根拠等				達成率(%)			-
補足事項									
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)				156	116	220		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
		一般財源				156	116	220	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)				312	232	440	
		受益者	地元住民 (B)			500	500	500	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	しのぶ砂防ダムは全国で唯一ダムの中を歩いて通れる砂防ダムで、周囲には親水公園を整備しており、観光客や地域の住民に親しまれている。また、イベントも多数実施されている。	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	地元住民によるイベント開催には協力して実施する。イベント開催などの地域での利用の観点から、地元町内会による維持管理を検討する。	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	観光客や市民に親水公園として親しまれている。地元の児童・生徒には砂防学習の場としても利用されている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	水車小屋の維持管理や砂防堰堤内の照明などの最小限の事業を行っており、施設内の花壇や草刈は地元の方で維持管理を行っている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外		
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	この施設をさらに多くの方に利用していただけるようにする。
--	------------------------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	所管である神通川水系砂防事務所(国)が管理すべき施設であり、特例期間終了後は国で実施してもらうよう要望する必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	この施設で開催されるイベントのPR、散策・ウォーキング・トレッキング コースガイドにしのぶ砂防ダム親水公園が紹介されているので、このようなパンフレットを旅館や道の駅等観光施設でPRして知名度を高め、利用者の増大を図る。
-----------------	---

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		92299	地域小学校教育振興事業 (瀬浦小学校交流推進事業)	担当課	上宝支所 地域振興課		内線
		番 号					
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	教育振興費		○ D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画					
市長公約							

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	本郷小・栃尾小4年生と引率者	対象者数	29 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	水見市立瀬浦小学校と、本郷小学校、栃尾小学校の4年生が海の子山の子交流を行うことにより、社会性を育む課外授業として児童の教育効果の向上に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	水見市立瀬浦小学校へ訪問する経費に対する補助金		

2 事業の推移・結果 (Do)

H25の実績		海の子山の子交流事業 平成25年7月16日(火)から平成25年7月17日(水)まで 1泊2日 参加人数 N=29(小学生 N=25 補助対象引率者 N=4) ※別途、当該補助対象外の引率者が2名参加						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	本郷小・栃尾小4年生と引率者数		人	目標値	30	29	24	
				実績値	29	29	-	
成果指標	算出根拠等	本郷小・栃尾小4年生児童数と引率者数		達成率(%)	97	100	-	
	交流事業参加率		%	目標値	100	100	100	
成果指標				実績値	100	100	-	
	算出根拠等	交流事業に参加した児童総数の割合		達成率(%)	100	100	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
成果面	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
成果面				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
成果面	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
成果面				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補正事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			300	300	300		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			300	300	300	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			10,345	10,345	12,500	
		受益者	事業参加者 (B)		29	29	24	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い		A	異なる社会環境の中で課外学習を行うことは、児童自らが学び考え行動する力を育み、今後さらに進行する高齢化社会を担う人材育成に繋がることから、高齢化率の上昇とともに、ニーズは高まっている。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない		A	事業主体は、当事業に参加する2校(本郷小学校、栃尾小学校)で構成する任意団体であり、児童の課外学習の実施主体として妥当である。また、市が事業の助成を行うことは7次総目標「体験学習、学校間の交流などの個性や能力を伸ばす教育を行う」の具現化に繋がりが、妥当である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている		A	児童の教育の一環として実施する事業であり、将来に渡って児童の成長とともに成果が表れるものであるため、短期的且つ定量的な成果の評価は主旨にそぐわないが、過疎地域に居住し少数人数で学習している児童が、都市部では当たり前「多様な人との交流」を通じて社会性を育む事業として有効である。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない		B	経費の大半は交通費と宿泊費であり、これ以上の事業費削減は困難である。しかし、参加者負担金があるものの、受益者が限定されており、他地域の学校との均衡を考慮すると、受益者負担の割合を増やす必要がある。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった		A	体験学習、学校間の交流など個性や能力を伸ばす教育を行う(7次総)に寄与している。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・H27以降の当該事業の在り方について、学校と保護者及び相手校との協議を行うとともに、全市域的な均衡に配慮しつつ方向性を定める必要がある。
--	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・事業を継続する
-----------------	----------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域振興事業補助金	担当課	上宝支所 地域振興課		内線
		番	種					3911
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算 の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費		O	D その他事業		
	根拠計画							
市長公約		12	新しいまちづくりを実現するために、次のことを市長の基本姿勢とします。					
			・合併のメリットをいかしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取組む活動に支援します。					

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所管内住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取組む地域振興事業を支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域住民が自主的、主体的に取組む公共性の高い地域づくり事業への補助金		

2 事業の推移・結果 (Do)

成果面	H25の実績		合計27件 【内訳】 ・市道草刈等の景観保全 (15件) ・地域振興のための情報発信等 (2件) ・公園等のコミュニティ施設の整備 (2件) ・その他 (8件)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	補助金交付要望件数		件	目標値	30	29	15
					実績値	29	27	-
	活動指標	算出根拠等	事前要望の受付件数	達成率(%)	97	93	-	
	活動指標	補助金交付件数		件	目標値	22	22	15
					実績値	26	27	-
	活動指標	算出根拠等	採択事業への補助金交付件数	達成率(%)	118	123	-	
	成果指標	補助金受益対象者数		人	目標値		3,359	3,283
					実績値		2,812	-
	成果指標	算出根拠等	受益者／地域住民	達成率(%)		84	-	
					目標値			-
					実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-	
					目標値			-
					実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-		
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			4,444	5,426	2,500		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			4,444	5,426	2,500		
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)			1,299	1,615	761	
		受益者	上宝支所管内市民 (B)		3,421	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・住民自らが主体となって地域づくりを行う上での市民ニーズは高く、地域力の向上と地域への潤いを与える事業としての重要度も非常に高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・地域力の向上と地域活性化を推進するための事業であることから、市民の活動を市が支援する必要性は高い。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	・市民自らが労役提供することで、生活環境の改善や地域の活性化を図るという住民意識の高まりにより、地域における新たな住環境づくりに有効である。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・要望事業の必要性や緊急度を十分精査するとともに、事業コストの妥当性にも配慮しながら実施した。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市長公約である「地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取組む活動」を具現化する施策として有効である。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域からの要望は高いが、事業の必要性や重要度、また採択事業に対する事業コストや効率化に配慮し実施する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。
-------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・対象事業についての事業コストや地域バランスに配慮し、十分な事前協議や調整を行い事業を実施する。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域要望対応事業	担当課	上宝支所 地域振興課		内線
		番	種					3911
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算 の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		○	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費		D	その他事業		
	根拠計画							
市長公約		12	新しいまちづくりを実現するために、次のことを市長の基本姿勢とします。					
			・合併のメリットをいかしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取組む活動に支援します。					

1 事業の目的・概要 (Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所管内住民	対象者数	3,283 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	即応性が求められるため、市有施設の修繕に対し迅速に対応する。		
概要	事業の実施手法(手段)	市道、農道、林道、水路等の公共施設の軽微な修繕		

2 事業の推移・結果 (Do)

H25の実績		合計12件 【内訳】						
		・市道、林道、遊歩道等の舗装修繕 (3件) ・コミュニティー施設周辺の軽微修繕 (3件)		・水路、側溝等の修繕 (4件) ・その他 (2件)				
成果面	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	修繕件数		件	目標値	20	20	12
					実績値	14	12	-
		算出根拠等	施設修繕の実施件数		達成率(%)	70	60	-
	成果指標	即応性		%	目標値	100	100	100
					実績値	100	100	-
		算出根拠等	要望から1ヵ月以内に実施した率		達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補正事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			3,926	8,171	4,700		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			3,926	8,171	4,700	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)			1,148	2,433	1,432	
		受益者	上宝支所管内市民 (B)		3,421	3,359	3,283	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・地域からの要望に対し、迅速に対応する事業であることから、市民及び地域からのニーズは非常に高い。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設や公共施設等における軽微な修繕であることから、市民や地域からの要望に対し、市が実施する必要性は高い。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・市民や地域からの要望に即応する事業としての有効性は高く即効的な事業効果が大きい。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業の必要性和費用対効果を精査し、事業の効率化やコスト削減に配慮しつつ事業を実施している。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市民の安全、安心、快適な住環境づくりの実現を図るための政策として有効であり、市民からの要望に対し即応性をもって対応できる事業としての効果は高い。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・市民からの要望に対する事業の必要性や困窮度、重要度について精査を行い、採択事業の効率化を考え即応性を持って実施する必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・事業の必要性や困窮度、重要度について申請者との綿密な協議を図り、事業コストや効率化に配慮し事業を実施する。
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定